平成 27 年度事業報告

1 あおもり NPO プラットフォーム構想の具体化

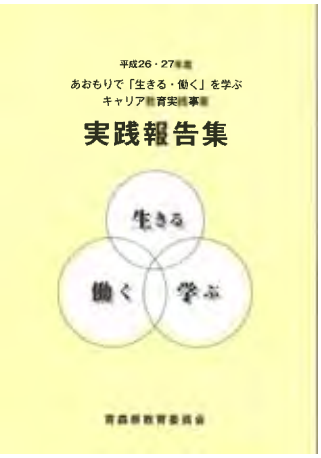
「あおもり NPO プラットフォーム構想」は、東奥日報社・プランニングネットワーク東北・あおもり NPO サポートセンターが中心となり、県内外の市民活動団体 や企業等と穏やかなネットワークを構築し、情報の共有を行うとともに、事業の協力を行いながら、自立した市民社会を構築することを目指し始まりました。

（1）今年度は、以下の NPO 法人及び団体とネットワークを構築し、活動サポートや交流を行いました。

- サンネット青森
- 青森県環境パートナーシップセンター
- 地域センターあおもり
- tecoLLC
- 弘前こどもコミュニティ・ぴーぷる
- IT 事業センターはちのへ
- アートコアあおもり
- アート NPO リンク
- ふうあの会
- ごしょがわら恵鈴会
- 日々木の森
- レスパイトハウス WA
- アニマルサポート青森
- 青い森地域創造基金
- あおもり男女共同参画をすすめる会
- ドアドアらうんど・青森
- 十和田 NPO 子どもセンター・ハピたの
- 斗南どんどこ健康村
- むつ下北子育て支援ネットワークひろば
- 夢
- あおもりラジオくらぶ
- 岩木山自然学校
- 青森レクリエーション協会
- 音楽ネット青森
- プランニングネットワーク東北
- NPO サポートセンター
- 日本 NPO センター
- シーズ・市民活動を支える制度をつくる会
- 大阪ボランティア協会
- 会計基準協議会
- ふくおか NPO センター
- 日専連ホールディングス
- ういむい未来の里 CSO
- 青森朝日放送
- 青森放送
- 青森テレビ
- 青森銀行
- みちのく銀行
- LLC インセクツ
- 十和田市現代美術館
- 青森市文化スポーツ振興公社
- A-paradise 実行委員会
- 市民活動団体『SHIT』
- 社会福祉法人　青森県共同募金会
- 青森県総合社会教育センター
- 青森学生団体 ASC

2 行政との協働

あおもりで「生きる・働く」を学ぶ
キャリア教育実践事業　実践報告集



行政からの事業受託を通じて、行政との協働を進めました。

相手先	事　業　名	内　容	備　考
青森県	平成２７年度あおもりで「生きる・働く」を学ぶキャリア教育実践事業に係る地区実行委員会運営事業	子供達の自己肯定感を高め、将来の夢や希望に向け積極的に行動するよう促すため、学校・家庭・地域におけるキャリア教育の一層の充実を目的とした事業の事務局を担いました。	委託事業：青森県

3 企業との協働

(1) （協）日専連ホールディングスとの協働による、「NPO 応援団カード」（クレジットカードでの買い物の額の一定割合を指定した NPO に寄付できる）の普及に努めました。

登録 NPO：52 団体

ANPOS への寄付金 51,025　円

(2) 損保ジャパン、日本 NPO センター、岩木山自然学校と協働し、「西目屋村つがる白神湖畔 (津軽ダム) わらはんどの池」において、希少生物の保護プロジェクト SAVE JAPAN プロジェクトに参加しました。

(3) 合同会社 tecoLLC と協働し、あさって創造大学 ICF 開講プレトークイベント「東京の音楽家 × 大阪の編集者 × 青森のキュレーター」を開催しました。

4

その他

4－1　普及啓発

NPO 法人会計基準及び認定 NPO 法人制度の普及に努めました。

4－2　情報収集および発信

全国の NPO 法人等との連絡会議に出席するとともに、それらの情報をホームページで発信しました。

ホームページや SNS を活用した情報発信に努めました。

A-gain 展チラシ

A-paradise チラシ

まわしよみ新聞の様子

4－3　NPO、一般社団法人設立・運営

NPO、一般社団・財団法人の設立相談・運営相談を行いました。 ミッションとゴールの確定、事業計画の作成、定款その他提出書類の作成、登記作業、事業運営などを支援しました。

法人設立・運営支援

- NPO 法人青森レクリエーション協会会計支援
- NPO 法人音楽ネット青森定款変更等支援
- ㈱しあわせ農園　NPO 法人化設立支援

団体及び個人	1 ケ月平均	5 件以上
電話相談問い合わせ	1 ケ月平均	100 件以上
郵便・FAX・DM	1 ケ月平均	100 件
メール	1 ケ月平均	1000 件以上

4－4　調査研究・政策提言

NPO 法人会計基準協議会に参加し、会計基準の普及に努めました。
全国の NPO 団体と NPO 法改正についての議論を深めました。
青森県内の空き家の再生・活用事業における NPO 等の調査を行いました。

4－5　労働保険事業組合事業

労働保険事業組合としての業務を行うとともに、NPO 法人、地域中小企業の労働保険への加入を働きかけをしました。

4－6　その他の自主事業

事　業　名	内　容	備　考
【A-gain】　展 -Let's open the door again- 開催	中心商店街空き店舗を活用した現代アート作品のインスタレーションを開催しました。	助成事業：福武財団文化と芸術による地域振興助成
廃校活用プロジェクト運営	昨年度に引き続き、カフェを土日祝日、有志によるボランティアで営業しました。 8 月 14 日～ 16 日「子ども村キャンプ」がキャンプ地として校舎を利用しました。 A-paradise 実行委員会が、企画「アオモリノイズ」のロケ地として校舎を利用しました。	
まわしよみ新聞	・十和田市現代美術館と連携し、陸奥賢さんを講師として招聘し、「まわしよみ新聞＠十和田市現代美術館」ワークショップを開催しました。 ・東奥日報社の後援をいただき、陸奥賢さんを講師として招聘し、「まわしよみ新聞＠青森」ワークショップを開催しました。	助成事業：平成 27 年度青森市人材育成支援事業補助金対象事業

あおもり NPO サポートセンターの活動がメディアに取り上げられました。

グループで記事集め壁新聞

ニュース ネタに弾む会話

現美 制作、発表楽しく

十和田

新聞を読んで気に入った記事を切り取り、そのニュースについて意見交換し、壁新聞に再構築するメディア遊び「まわしよみ新聞」のワークショップが2日、十和田市現代美術館で開かれた。参加者は3～4人のグループをつくり、お気に入りの記事について"世間話"を楽しんだ。（三上朋徳）

自分が選んだお気に入りの記事を台紙に貼って壁新聞作りを楽しむ参加者

ワークショップは青森市のあおもりNPOサポートセンターと同美術館の共催。講師にまわしよみ新聞の考案者・陸奥賢さん＝堺市＝を招いた。市内のほか、岩手県や秋田県からも含む計13人が参加した。

陸奥さんは「まわしよみ新聞は、仲間が集まれば気軽にどこでも楽しめる。アナログなものづくり作業でもあり、自分の世界観も広がる。遊び心をもって楽しんでほしい」と話した。

参加者は東奥日報や岩手日報など複数の新聞を回し読みし、なぜその記事を選んだかをグループ内で順番に発表。台紙に記事を貼り付けて、自分なりの見出しやコメントを書き込んだ。

完成した壁新聞はグループごとにお披露目。青森ねぶたの前夜祭や盛岡市の「さんさ踊り」開幕など夏祭りの記事をまとめたり、小さな外電記事に見出しを書き加え目立たせる工夫をしたりしたものもあった。

十和田市立第一中学校の工藤信子教諭は「初めて会った者同士で、突っ込んだ話し合いができるのが楽しい。ワークショップ形式なので、学校でも生徒たちのコミュニケーション力のアップに有意義」と話した。

＝私の紙面批評＝

あおもりNPOサポートセンター理事長　斉藤　雅美

2015年9月掲載分　**印象的な鶴田のイベント**

テレビやインターネットで情報をスピーディーに得られる昨今、読者が地方新聞に求めるものは何か。全国的なニュースの中にある「青森県において」の視点、暮らす人の顔が見える話題の提供だと思う。地元から発信されるニュースには、わが町を誇る人達の気概が感じられ、また、地方新聞ならではの面白い記事に出会える。

9月の紙面を賑わせていた「天守動く」。弘前城本丸石垣大改修に伴う曳屋工事は、まず題字が目を引き、工事の様子や都心でのPRの様子、曳屋ウイークの様子などシリーズ読物の如く読ませ、100年ぶりの大事業をお祭りのように盛り上げる誘因となった。22日付朝刊13面の写真特集は、曳屋参加者の笑顔や曳屋仕様姿のかわいらしいたか丸くんが印象的だった。

15日付朝刊16面「青森市中心部でA－paradise」。音楽やダンス、芸術作品展示などを市民が企画し、市が支えるイベントとして2年目を迎える。市民主導の企画にはマンパワーや資金の不足による継続の難しさが伴う。このイベントは市民の発案を行政が多角的にバックアップし、規模も内容も膨らみを増している。そういった価値を紙面から読み取れると良いと思う。

抜群に印象的だったのは28日付朝刊17面の「鶴田町はげます会　中秋の有多毛」。「名月に劣らぬ自慢の頭」という見出しがまたすごい。吸盤綱引きや誰の頭か当てる「名月当てクイズ」などが行われるこの行事、ネーミングといい、毎年バージョンアップする内容といい心が惹かれる。全国各地で地域おこしイベントは多々あるが、これは唯一無二、オリジナリティとユーモアは日本一だと思う。おじいちゃん達のイベントかと思いきや今年の[illegible]はなんと30代。11月には吸盤綱引きの全国大会が開催されるそうで、全国から自慢の頭に磨きをかけたみなさんが集まり、鶴田町は聖地としてますます輝きを増すことだろう。

私が新聞を読む時間は、職場でお弁当を食べながらの「ながら読み」。1面コラム「天地人」から社会面へと移り、「逆さ読み」で社説へと進む。新聞は家庭でお茶を飲みながら、喫茶店でコーヒーを飲みながら、「ながら」がよく似合う。当法人では、面白かった記事や気になる記事を他者に紹介し、あれこれと話しながら共同で壁新聞を作る「まわしよみ新聞」を開催し、コミュニケーションツールとしての新聞の魅力を伝えている。「ながら」「逆さ」「まわし」読みは、日々流れていく多くのニュースを手元に留め置くことができる新聞だからこそ可能なこと。読者が新旧のメディアを併用しながら様々な情報を取捨選択し、考えるために、生活に密着した地方新聞には細やかな分析と偏りのない情報の提供を期待している。

＜さいとう・まさみ　1968年、弘前市生まれ。NPO法人あおもりNPOサポートセンター理事長。県警職員を経て、2008年よりNPO中間支援組織として他のNPOを支援する活動、廃校活用事業「アートでオン！ディレクター」など文化芸術と社会を結びつける活動を行っている＞

告知板

十和田　来月2日に「まわしよみ新聞@現代美術館」　午後1時から十和田市現代美術館市民活動スペースで。

まわしよみ新聞は、数人のグループで新聞を回覧し、面白いと思った記事を切り抜き、その記事について意見交換してから、オリジナルの壁新聞に再構築するワークショップ。

講師は考案者で観光家、コモンズ・デザイナー、社会実験者の陸奥賢さん（大阪府堺市）。先着30人だが余裕があれば当日でも参加を受け付ける。参加費は800円（お土産付き）。

申し込みはあおもりNPOサポートセンター（電話017・752・0410、メールanpos1999_0415@a-nponet.jp）へ。

気になる記事集め「まわしよみ」交流

青森で学習会

切り抜いた記事を再編集し、新たに新聞をつくるワークショップ「まわしよみ新聞@青森」（あおもりNPOサポートセンター主催、東奥日報社後援）が19日、青森市の県観光物産館アスパムで開かれた。

全国で開かれており、県内での開催は3回目。10～70代の男女約25人が参加し、まわしよみ新聞の発案者・陸奥賢さん(37)＝堺市在住＝が講師を務めた。

参加者は6班に分かれ、東奥日報など複数の新聞を回覧。「日本とインドが原子力協定を締結」「全国高校生の内定率が6年連続で上昇」など、それぞれが気になった記事をはさみで切り抜き、「原子力の未来を考えなければ」「自分や家族に大きく関わる問題」と一人一人感想やその記事を選んだ理由を述べた。

各班は模造紙へ記事を配置し、コメントなどを書き込んだ後、完成した新聞を披露した。

父親の川山努さん(43)と参加した泉川小5年の颯斗君(11)＝青森市＝は「新聞を読むと、社会やスポーツのことをいろいろ知れる」とにっこり。普段から新聞をスクラップしているという同市の川崎洋明さん(79)は「自分とは違う、若い人の考え方を知ることができた」と話した。（齋藤春樹）

完成した「まわしよみ新聞」を披露する参加者と考案者の陸奥賢さん(右)

◆「A－gain」　23日まで、[illegible]

告知板

[illegible]　19日に「まわしよみ新聞@青森」　午後1時半からアスパムで。

まわしよみ新聞は、新聞を読んで気に入った記事を切り取り、そのニュースについて意見交換し、壁新聞に再構築するメディア遊び。

講師は考案者で観光家、コモンズ・デザイナー、社会実験者の陸奥賢さん（大阪府堺市）。先着30人を受け付ける。参加費は無料。申し込みはあおもりNPOサポートセンター（電話017・752・0410、メールanpos1999_0415@a-nponet.jp）へ。

空き店舗に若者アート

東京の大学院生と競演

イラストレーター・豊川茅さん

青森駅前の目抜き通り「新町通り」のファストフード店だった空き店舗で、12日から若手芸術家の男女2人による現代アート展が開かれている。街を音楽や芸術で元気にしようという青森市とNPOなどの取り組み「アートでオン！」のイベントとして、地元の女性イラストレーターと、東京芸大の大学院生の男性との硬軟取り混ぜた作品が競演している。（岡田俊一）

1階で展示を行うイラストレーターの豊川さん（2月、青森市新町の「旧マクドナルド青森新町店」の空き店舗で）

2階で展示を行う山崎さん

■異質な作風が競演

開かれているのは、「アートでオン！　中心商店街空き店舗を活用した現代アート作品のインスタレーション展」。5年前に閉店した「マクドナルド青森新町店」の空き店舗が会場だ。

展示しているのは、青森市で生まれ育ったイラストレーター豊川茅さん(24)と、北海道出身で東京芸大大学院生の山崎千尋さん(25)の2人による作品。豊川さんの作品は、自作のキャラクターや食べ物など日常を素材にした親しみやすさが特徴だ。今回は、男性の写真にイラストを描き込み「自分の化身の"こびと"が好きな人の周りを楽しそうに漂う様子」を表現した作品を並べた。

一方の山崎さんは、これまで社会や地域が抱える課題などを題材にした作品を多く手がけてきた。今回の作品「啼かない鳥」は、青森市の「ねぶた祭」の「跳人」と、かつて問題になった黒ずくめの「カラス跳人」がテーマ。跳人が付ける鈴を模して作った針金の立体にカラスの模型を置き、光の点滅と鈴の音で「ねぶた祭のにぎわいには、本来はカラス跳人の人々が良くも悪くも内包されている」とのメッセージを込めた。

山崎さんの作品「啼かない鳥」

■芸術で街を元気に

「アートでオン！」は、市が進める音楽や芸術で街を活性化する事業だ。運営の中心は地元のNPOなどでねぶた師の竹浪比呂央さんも名を連ねる。2年前から各種イベントを開くなどして芸術家の発掘、育成にも力を入れている。

今回は、市街地の空き店舗に若者を呼び込もうと、作風の異なる2人に展示を依頼。事務局の担当者は「会場はかつて多くの若者でにぎわった場所。展示を若者が芸術に触れるきっかけにしたい」と語る。

■来場者を幸せに

小さい頃から絵を描くのが好きだった豊川さんは、美術を学ぼうと旧県立青森戸山高校美術科に入学。3年生の時、「ファッション甲子園」で審査員特別賞を受賞するなど創作にいそしんだ。専門学校を卒業後、衣料品店で働いたが「人のつくったものではなく、自分がつくったものを売りたい」と広告デザイン事務所に転職。休日に創作にいそしみ、個展を開くなどし注目を集めた。展示について「訪れる人が何となくハッピーになってくれればうれしい」と笑顔で語る。

山崎さんは芸大進学後、社会問題について表現する作品づくりを進めてきた。昨年秋田県で展示した、地元を離れる「若者」と「地元」とを隔てる「デジタルの壁」を表現した立体作品が好評を博した。今回は「自分のような"他者"が青森を表現する『非日常』を感じてもらいたい」と話していた。

展示は23日まで。午前10時～午後5時。無料。問い合わせは、アートでオン！事務局（017・773・7304）へ。

王余魚沢（かれいざわ）倶楽部

（青森市）

日本一難読カフェ！ かれいざわカレーが人気です。

平成16年、[illegible]により閉校した「王余魚沢小学校」を平成20年から青森市より借用し活用を開始しました。

廃校と周辺里山を連携しながら、コミュニティカフェの運営、アートイベント開催など様々な活動を展開しています。小学校は地域コミュニティの最も集約的な存在であり、廃校になったとはいえ時代にマッチした使い方を行うことで地域の大きな活力になると考えています。現在は土日祝日のみカフェを運営し、合わせて学校を開放しています。

...glish workshop in Kareizawa!

5分、森遊び、川遊びができる【王余魚沢倶楽部の森】

４－７　交流（含む講座・セミナーの企画運営、プログラムの提供、講師派遣）

「あおもり NPO プラットフォーム」の活動をとおし、他の団体との交流を図るとともに、県内外を問わず、他団体及び企業との情報の交換を進めました。

以下の事業、プロジェクト、フォーラム、セミナー、委員会等に参画しました。

●社会的責任向上のための NPO/NGO ネットワーク
●全国 NPO 法人 CEO 会議
●会計基準協議会
● SAVE JAPAN プロジェクト
●市民ファンド推進連絡会
●企業メセナ協議会
●公益財団法人みちのく・ふるさと貢献基金　理事
●青森市長アドバイザー
●あおもりデザイン協会　事務局長
●百石町展示館　館長
● Co-op 青森　理事
●青森県移送サービスネットワーク　代表
● NPO 法人 J ネット　理事兼事務局長
● NPO 法人 全国移動サービスネットワーク　理事
● NPO 法人サンネット青森　理事
●八戸市市民活動サポートセンター　運営委員
●八戸市都市計画マスタープラン見直し及び
●八戸市立地適正化計画策定ワーキング会議　委員
●ＮＰＯ法人北さんりく総研　地域づくりを語る会　講師
●あおもりピンクリボンプロジェクト
●青森市医師会　広報委員
●浪岡グリーンツーリズム　理事
●青森学生団体 ASC　代表
●あおもりだし style　副代表
● A-paradise2015 実行委員会　実行委員
●青森市アートでオン！実行委員会
●青森市寿大学・寿大学院・女性大学・女性大学院　講師
● NPO 法人青森レクリエーション協会　勉強会講師
●あおもり市民百人委員公聴会　委員
●公益財団法人福武財団「大地の芸術祭」現地視察ツアー
● NPO 法人サンネット青森運営協力委員
● JAF 青森支部交通安全実行委員

4－8　総務・労務関係

（1）2016 年 4 月 30 日現在の会員数は以下の通りです。会員のプライバシーを守るために、名簿の管理を厳重に行いました。
正会員…個人 33 人、準会員…個人 9 人
（2）定例総会を開催しました（6/6、11/27）
（3）理事会を開催しました（6/6、11/27）
（4）社労士に労働保険等の業務を外注し、事務作業の軽減化を図りました。

4－9　会計関係

(1) 会計処理を容易かつ迅速に行うため、ネット帳簿「N-books」の使用を始めました。

(2) 経理の透明性を図り円滑に事業を行うために、事業別に処理を行いました。また税理士による監査を行い、一層の透明化に努めました。

4－10 社会的責任（SR）への取組

社会的責任への取り組みとして以下のことに取り組みました。
1，組織統治
コンプライアンス規程の明文化等 ---------- 規定を遵守しました
2，人権
労働における基本的原則・権利等 ---------- 遵守いたしました
3，環境
持続可能な資源の使用等 ---------- 節電等に努めました
4，公正な事業慣行
SR 調達、知的所有権の尊重等
5，消費者課題
根拠の開示、使途の開示等
6，コミュニティ参画・開発
雇用創出・建興・社会的責任等

平成 27 年度会計報告

- 活動計算書
- 貸借対照表
- 財務諸表の注記
- 財産目録
- 監査報告書